

子の比が等しいことを理解する。

(8) 第5時で、㉞の白玉団子をつくるために、白玉粉を150gにしたときに必要な水の量を考えていく。同様に、㉟, ㊱, ㊲でも白玉粉150gに必要な水の量を求める。

(9) 調理実習として、グループごとにフルーツ白玉団子をつくっていき、できたフルーツ白玉団子を1年生に振る舞う。



3 学習上の留意点

- ・白玉団子を振る舞うということで、交流学級の担任の先生に、アレルギー等がないかを確認して、実施するようにする。
- ・全ての班で、使用する白玉粉の量を150gにすることで、㉞～㊲のすべての白玉団子で使用する水の量を整数値にすることができる。また、お店で売っている白玉粉が1袋150g入りであったことから、白玉粉を軽量せずに済むということで150gがよい。

4 学習の効果

- ・比の大切さを実感したり、1年生においしい白玉団子を作りたいという意欲が高まったりできる。
- ・㉟と㊱の比の値は同じ1で、比も両方とも1:1であることから、同じ比であり、同じ白玉団子であることを児童は知ることができる。
- ・前時では、違う白玉団子であったという児童もいたために、もう一度㉟と㊱の白玉団子を用意して試食し、食感が同じ白玉団子になることを確認できる。